

カイツブリ



与一谷にて

撮影：桐原佳介

■ため池や川で会えるかも
カイツブリは、1年中南部町で見られる水鳥の一種です。全長は30センチほど、アフリカ大陸からユーラシア大陸にかけて広く分布しています。町内を流れるやや川幅の広い場所や、比較的大きなため池などで水面を泳ぐ姿が観察できます。

以前、法勝寺川の土手を歩

いていたら、カイツブリが2、3羽浮いていました。餌を探すために水中に潜って、スイスイと水草の中に入っていきます。カイツブリの足は、4本の指が大きく平らになっていて、船のスクリューのかわりになっているのです。やがてカワムツ(アカバエ)をくわえて水面上がってくるのと、つるりと頭から小魚を丸呑みしました。トンボの幼虫や、魚にエビの仲間などが大好物なので、彼らが泳いでいるところは水辺の生き物が沢山いるのだと思います。

■浮き素での子育て

カイツブリの巣は水草で作られ「浮き巣」と呼ばれています。夫婦共同作業で、巢作りに抱卵や餌運びを行います。雛の模様は、黒い体に白い縞模様の入った顔とピンクのクチバシで、なんとも個性的です。親鳥の背中に乗ったり、翼の下に潜り込んだりと愛らしい親子の姿に、子育てを応援したくなります。

これまでに境の松崎池や井上の地尾池などで巣を見つけました。もし繁殖地を見つけたら、静かに見守って頂ければと思います。データも集めていますので、情報をお持ちの方は観察記録をお知らせ頂ければ、より詳しい町内の繁殖情報が積み重なります。

■お酒の名前にも俳句にも

全国には、トキやイヌワシといった地域を象徴する野鳥の名前が使われたお酒が、何種類も販売されています。

カイツブリも福岡県三潞町(みつまち)の「町の鳥」に制定され、その名にちなんだ「鳩(かいつぶり)」という米焼酎が地元で製造されています。鳩は「にお」とも読み、俳句をたしなんでいらつしやる方にはこちらの呼び名の方がなじみ深いのではないかと思います。最後は松尾芭蕉の句で締めましょう。

見にゆかむ

自然観察指導員 桐原真希

祐生会いの館【緑水湖畔】 ■休館日：毎週火曜日(火曜日祝日は翌日) ■問合せ：☎66-4755

祐生収集の転機—趣味の人々との出会い①

6月14日(土)～8月4日(月)

祐生は、大正6年に大阪朝日新聞に紹介された人々と交流を始めます。本格的な収集家の仲間入りをした様子をご紹介します。



今年も常設展の入替をしました

郷土玩具と祐生作品の展示が新しくなりました。どうぞご覧ください。



横浜開港人形(神奈川県)



蔵書票